

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100520		
法人名	社会福祉法人 瑞祥会		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	香川県東かがわ市引田922番地18		
自己評価作成日	平成23年09月12日	評価結果市町受理日	平成22年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771100520&SCD=320&PCD=37
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にテニスコート、パークゴルフ場、公園があり、地域の人たちとの交流が行われている。また、のどかな山間のため、利用者は、つくし採り、タケノコ採り等、散歩がてら季節を楽しんでいる。職員とのコミュニケーションもよく、利用者同士お互いに声をかけあい、助け合っており、家族面会者に好評である。毎日の生活の中で、利用者の希望や意見を取り入れ、計画作成している。弁当や外食等を取り入れながら、お寺参りやショッピング、地域の行事などに積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

利用者が、いつまでもその人らしい生活ができるようにお手伝いすることを理念に掲げ、本人の趣味や特技を支援しながら持てる力の維持に努めている。居室は畳の間で、押入れ、トイレ、洗面所が付き、ボランティアが指導する生花を居室の前に飾り、家庭的な、和やかな雰囲気になっている。
利用者が6人の少人数を活かして、コンパクトに外出や行事参加等に気軽に出かけている。記録類が整理されていて、会議や研修等その時の内容がよく分かる記録となっている。業務日誌は、一日の業務内容がうかがえる工夫した項目になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がいつまでもその人らしく、安全で安心した生活が過ごせるよう、やさしさにあふれたサービスを提供するよう心がけている。	事業所の基本方針として「利用者がいつまでも、その人らしく生活できることをお手伝いします」を目指して、いつも安全に、やさしく、コミュニケーションを取ることを日々の介護で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公園の散歩や地域へのショッピング、また、隣接する福祉施設の行事に参加して、地域の人たちと交流している。夏は近くのテニスコートの利用者に氷の差し入れをして交流を図っている	地域の伝統行事・敬老会への参加や、幼稚園児のミニ運動会のお誘い、事業所に福祉体験・実習の受け入れ等で、様々な年齢層の交流がある。また、ボランティアは、夏祭りの盆踊りや生花教師等が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人たちとの交流を図っている。また、実習生の受け入れや見学者の相談に対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの意見を、サービス向上に活かしている。	利用者、家族代表、民生委員、地域代表も参加して2か月に1回、定期に開催している。行事实績、ボランティア受け入れ、職員研修の実施等を報告し、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の交流はあまりないが、運営推進会議を通じて意見交換を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議の参加以外は、市の取り組みとして、介護相談員が月2回事業所を訪問して、利用者、家族に直接意見を聞いている。必要時、意見や気づきなどを伝えてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・他の入り口も開放している。徘徊時は一緒に散歩するなど、職員が行動を共にしている。また、マニュアルを作成し活用している。	昼間は、玄関や居間の鍵を開放している。最近のニュースから、虐待の事例で勉強会を開催したり、年1回は法人全体での研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力行為等がある利用者への対応は、医師や家族の意見をもとに、その都度、職員間で話し合っ対応している。		

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別養護老人ホームの研修会に参加している。ただ、現時点で活用する機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回介護相談員が訪問している。また、意見箱を設置している。 年1回の家族会を開催し、家族と利用者・職員間の交流を深め、意見をうかがい、対応している。	利用者は年1回アンケートで、食事や要望を調査したり、昨年から家族会を開催し、家族アンケート調査も実施して、要望・意見を聞き、名札着用するなど改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員意見をもとに話し合いを行い、利用者・職員の対応に反映させている。	運営や利用者の介護について、意見や提案を記録で出している。管理者は、記録や話し合いのなかで一緒に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、働きがいのある職場づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け、施設の研修に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所見学、知人との交流を通じて、本人・家族の希望や不安等を傾聴し、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所見学、知人との交流を通じて、本人・家族の希望や不安等を傾聴し、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人および家族の要望を聞き、介護計画を作成し、援助を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを密にしながら、本人の残存能力、生きがい等、個人にあった生活を築いていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし、本人とのパイプ役となり、利用者・家族がともに楽しく生活していただけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の店への買い物、地域の行事、また、家族の付き添いにての行事やお寺参り等、なじみの関係がとぎれないよう支援に努めている。	隣接の特別養護老人ホームに知人を訪ねたり、知人の化粧品店での買い物やお寺参り、家族と共にお墓参りなど、馴染みの人や場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に声をかけあい、助け合いながら、日々楽しく生活していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、これまでの関係を大切にしながら必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族の思いや希望を、アンケートやコミュニケーションを図りながら、意向を把握している。また、聞けない場合は、行動や表情で察するように心がけている。	言葉で表現できない人にも、日々の関わりや話の中で、思いや希望を汲み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族とのコミュニケーションや、日常生活の中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの行動、表情等、有する能力を総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を聞くとともに、ケース会を行い、個々に即した介護計画を作成し、対応している。	月1回のケース会で、気づきや計画内容について記録にして提出し、話し合いを持っている。そして、ケアプランやモニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や、日々の状態を記録したケース記録をもとに、変化があれば職員や家族で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、隣の特別養護老人ホームのホールを借り、他の利用者や理容師との交流を図る等、対応している。		

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、介護相談員、家族、知人、地域の方達との交流を図りながら、心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にし、家族と受診結果を共有している。異常時は家族の了解を得て、直接かかりつけ医の指示を受け対応している。	これまでのかかりつけ医に、家族が付き添って受診している。必要時はかかりつけ医と連携を取り、対応している。お薬情報も紙面で保存し、参考にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う事業所としての方針を、契約時に説明し、変化に伴ってその都度、本人・家族・関係者と話し合っている。	契約時に事業所の設備面で、対応が困難であることを、利用者・家族に説明をしている。今後、増床を機会に、設備面を改善して重度化や終末期に備える準備をしている。	事業所として、重度化・終末期に向けての準備をしている。利用者・家族の意向を尊重し、その人らしい終末期が迎えられる体制の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特別養護老人ホームと合同で訓練を実施している。また、利用者と避難方法について話し合っている。	消防署と連携を図って、隣接する法人施設と合同の防災訓練を年2回実施している。長時間停電の経験もあり、3日間の非常食の内容を見直している。事業所の夜間想定訓練を、今年度予定している。	夜間想定訓練が予定されているので、夜間対応の具体的な検討を期待したい。また、近隣の地域消防団の協力体制も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	個人情報取り扱いについては、教育や話し合いがもたれている。記録物の取り扱いや言葉かけからは、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを言葉や表情、行動等で自己決定できるよう、日常生活の中で働きかけ、見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、可能な限り個々の希望に沿った生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切に美容院へ行ったり、出張に来られた美容師に、髪型・長さの希望を伝えている。また、化粧等の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を活かし、準備・片づけをしている。また、菜園で採れた野菜、近くにつくしたけのこを採り、それを料理して季節を楽しんでいただいている。	隣接の施設から、半分調理済みの食品が届けられる。利用者の能力に合わせて、料理や片付けを一緒にしている。栄養管理は隣接事業所の栄養士が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士の献立による食材をもとに調理しているため、バランスがとれていると喜んで食されている。また、水分も食事・おやつ等で確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々に対応した口腔ケアを行っている。		

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のある方は、トイレ誘導を行っている。また、排便状況については、トイレの水を流さないよう声かけを行い、確認を行っている。	個々の排泄パターンを記録し、ほぼ自立した排泄をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、利用者と話し合いを行っている。また、水分、乳製品の摂取を勧めたり、便秘体操を行う等、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く、毎日2時から個々の希望やタイミングに合わせた入浴を支援している。	入浴の順番をカレンダーに記入して、不公平感を持たないような工夫や、嫌がる人は、その日の調子に合わせて、タイミングを見ながら、全員が毎日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠ができるよう、日中にレクリエーション活動や散歩で体を動かしたり、個々の状況にあった対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者個々の薬の目的、用法の大切さを理解しており、服薬の支援と症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、残存能力を活かした役割・楽しみ、気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者・家族の希望で、墓参り、ショッピング、お寺参り等、外食や弁当を持参しながら楽しみを支援している。また、近くの公園には、時間があれば出かけている。	家族や友人の協力もあり、地域の伝統行事や花見、ショッピング、外食と、月2回以上は出かけている。その時々写真を、廊下に掲示していて、笑顔の利用者の表情は、家族からも喜ばれている。	

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により買い物、支払等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、本人自ら電話をする等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人自らが生けた花や行事の写真、利用者の作品等、季節感を取り入れ、居心地良く過ごしていただけるよう心がけている。	共用空間は自然光が十分に入り、季節の花や作品も飾ってある。利用者はソファや畳の間で、それぞれがくつろいだり、パズル等をして過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭での菜園作りや、ホールではゲーム・パズル・テレビ鑑賞・読書等、その時々で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に、利用者の好みを取り入れた生活用品や手作りの作品を飾り付けたり、花を生ける等、利用者が、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は洗面とトイレ、押入れが設えていて、プライバシーが保たれている。使い慣れた鏡台やタンス等を置き、趣味の人形などを飾っていて、本人の好みに合わせた工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を把握し、転倒防止のため、畳をフローリングにしたり、居室がわからなくなる方には目印をつけたりしている。		